

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

京都、出町柳駅前。北西から流れて来た賀茂川と北東から流れて来た高野川が合流して鴨川となる。その合流点にある三角形のエリアを、京大生は「鴨川デルタ」と呼ぶ。大学院当時の私にとつては、毎日のように訪れるカラス調査地であつた。

さて、このデルタの西側、賀茂川に面した箇所金網でできたゴミ入れがある。大きなバケツのような形をしている。ある日、この中に煎餅を発見したハシボソガラスがいた。ハシボソガラスはどうやってか金網の隙間から煎餅を引きずりだし、くちばしにくわえて水辺へと歩き出したところで、**I**足を止めた。そして、**II**考え込むかのように数秒間、首をかじげた。それからスタスタと戻ってくるべくわえていた煎餅を置き、ゴミ入れからもう1枚、煎餅を引つ張り出した。そして先の煎餅の上に新たな煎餅を重ねた。さらに、この2枚重ねの煎餅を、実に真剣な態度でくちばしの先でつき、位置を調整して、寸分の違いもなく**III**重ねた。それから、おもむろに2枚の煎餅を一挙にくわえ上げ、えいやと胸を張って水辺に向かった。胸を張って上を向いていないと煎餅がくちばしから滑り落ちるからである。

水辺にたどり着いたカラスは、煎餅を一旦足もとに置き、眼下の賀茂川の流れを見下ろすと、**IV**煎餅を水に放り込んだ。そして、半分浮かんで流れ始めるそれを追って首を巡らせると、再び引つ張りあげた。このわずかな操作によつて、パリパリだった煎餅は水を吸ってフニャフニャになり、容易にちぎれるようになったのである。

なかなか驚くような技の連発だが、カラスは様々な採餌行動のテクニクを披露してくれる。少なくとも、ハシボソガラ

スは。

ハシボソガラスは開けた場所を好む。芝生や農耕地や河川敷などだ。**①**こういつた場所で何をしているかというところ、おしりをふりふり歩きながら、あつちをつつき、こつちをつつき、のぞきこみ、ひっくり返し、といった調子で餌を探している。とにかく地道に足で稼ぎ、丹念に探す。足を使うことベテランの刑事のごとく、何一つ見逃さないこと熟練した鑑識員のごとし、である。「探りを入れる」行動はプロービングと呼ばれるが、くちばしでかきわけ、くちばしを差し込んで押し開く、上を覆っているものをどける、ひっくり返す、と多岐にわたる。草の間には昆虫が潜んでいることがあるし、落ち葉の下には種子や昆虫やミミズ、石をひっくり返せばその下に何かがある、かもしれないからである。ハシボソガラスの行動の基本は「かもしれない」なのだ。

〈中略〉

**②**ハシボソガラスの「特徴的な」行動といえば、クルミ割りだろう。最も基本的な方法は、空から落として割ることである。これは、クルミのある地域ならどこでも見られるようだ。関西にはクルミが少ないので見たことがないが、東京ならば多摩川中流の河川敷でも見られる。川岸に流れ着いたクルミを拾って舞い上がり、上空から落とすのだ。ただ落とすのではなく、クルミを軽く投げ上げてさらに高さを稼ぐこともある。そして、落ちてゆくクルミを追って急降下する。クルミがうまく割れたら拾って食べ、割れずに跳ね返ってしまったら拾い上げてしまうからだ。巧妙なのは、ちゃんと石がゴロゴロした河原でやることだ。芝生に落としたりはしない。

さらに、自動車を利用してクルミを割るハシボソガラスも発

見されている。道路上の、自動車の通りそうな辺りにクルミを置いておき、自動車がこれを踏んで割ってくれたら食べるという行動である。

最初に見つかったのは仙台の東北大キャンパス内だが、少し前から近くの自動車教習所で見られたらしい。カラスはここでクルミを落として割っていたそうだが、教習所の教官が割れなかったクルミを轢いてやる事があり、それで覚えたのではないかとの事であった。

〈中略〉

よく聞かれるのは、「カラスって賢いんですね」という質問だ。しかし、これは非常に難しい。しかも話し出すと長い。

動物の知能を調べる方法として、スキナー箱を用いた条件付け学習の実験がある。ハトやサルがボタンを押して、問題に正解するとご褒美に餌が出て来る、という仕掛けをご覧になった事はないだろうか。これがスキナー箱だ。これで調べると、確かにハシブトガラスはドバトより覚えるのが早く、記憶している期間も長い。

だが、これは知能指数テストのようなものである。③ **知能指数は賢さの一要素かもしれないが、賢さそのものではない。** それに我々はよく「テストの点数と賢さは違う」などと言うのではないか。

④ **問題をさらにややこしくしているのは、種類の違う動物の「賢さ」を一律に計る方法などあるのか？** という疑問である。例えば、⑤ **正解のボタンを押し続けていればそのうち餌が出るよ、という装置を使ってハトに課題を解かせると、ハトは餌が出るまで何千回でもボタンをつつく。** 諦めるといふ事を知らないのだ。例えて言えば、自販機にコインを入れてボタンを押したのにジュースが出て来ない時、「出ないよ？ 出ないよ？ 出ないよ？」と何千回も押し続けるのがドバト流である。人間なら「アホか、それ故障してるに決まってるやろ」と言われるだろうし、普通は返却レバーで硬貨を取り戻して他の自販機を試すだろう。それが人間の「賢さ」である。

だがここで、ハトの視線で考えてみよう。ドバトの餌は果実や種子で、地面にめり込んだような種子でも、つついていればそのうち口に入るらしい。ならば、「この餌を手に入れるにはどうしたらいいだろう」などと立ち止まって考え込む方が、かえって効率が悪そうだ。「余計な事を考えるな、黙って手を動かせ」的※ ストイックな世界観を持っているのがドバトだ。つまり、「諦める事を知らない」「何も考えない」というのはドバト的には全く正しい、最も賢いやり方だとも言える。⑥ さあ、

生物として「賢い」のはどちらだろう？  
とはいえ、2枚の煎餅をきちんと重ねて一気にくわえあげるカラスは賢く見える。クルミを力任せに叩き割ろうとするよりは、上空から落とす方が賢く見える。わざわざ翼を使わず、道路にクルミを置いて轢かせて割る方がさらに賢く見える。そう、問題は「見える」なのだ。⑦ **人間にとって「賢く見える」事が「賢い」の定義である。** これは「賢いから賢い」という循環論法に陥っているけれども、人間の基準で動物の能力を計るのはそもそもそれくらい無理がある。しかも「賢い」は「上手にさばいた」「効率のいい手を考えた」など複数の意味をもつ。おそらくヒトの感じる「賢さ」はヒト自身が必要としてきた能力、すなわち、複雑な社会を維持し、非力な手足を補うための効率の良い方法を考え、そのために経験を記憶して理解し、計画を立てる、といった一連の能力を指すのだろう。

という前提を置いて、カラスの能力を見てみると、確かに、記憶が早い、記憶力が良いといった特徴は人間から見て「賢い」

「頭がいい」と判断する理由の一つだろう。

（松原始 『カラスの教科書』 一部改変）

※（文中のことばの意味）

採餌 … 動物などがえさをとること。

多岐にわたる … 一つの物ごとがいろいろな方面に分かれています。

ストイックな … 自己をきびしく規制し、快楽を求めないような。

問1

I、IVにあてはまることばとして最もふさわしいものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア ぴったりと      イ やにわに  
ウ ハタと          エ あたかも

問2

「鴨川デルタ」での出来事を述べることで、筆者はどのようなことを伝えようとしているのですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア カラスは非常に器用に餌を手に入れるということ。  
イ カラスは動物の中でも特に頭がいいということ。  
ウ カラスはかたいものをやわらかくして食べるということ。  
エ カラスは川を利用して餌を食べるということ。

問3

線①「こういった場所」とありますが、どのような場所ですか。それを説明した次の文の a、b にあてはまることばを、それぞれ指定された字数で文中からぬき出しなさい。

a（十二字）      b（三字）  
場所。

問4

線②「ハシボソガラスの『特徴的な』行動といえ、クルミ割りだろう」とありますが、ここで説明されているクルミ割り行動について正しく述べた文を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア カラスは落としたクルミの後を追って空から急降下し、芝生に落ちた場合はもう一度やり直す。  
イ クルミを上空から落とすだけでなく、地上から上に向かって投げることで高さを出すこともある。  
ウ ハシボソガラスは自分でつくのではなく、ほかの力を借りてクルミを割る点が「特徴的」である。  
エ クルミ割り行動はクルミのある場所であれば全国で見られるが、最初に確認されたのは仙台である。

問5

「スキナー箱」とはどのようなものですか。文中から十三字でぬき出し、はじめと終わりの三字で答えなさい。句読点なども字数に数えます。

問 6

——線③「知能指数は賢さの一要素かもしれないが、賢さそのものではない」とありますが、これはどのようなことを述べたものですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 実験からわかるカラスの「知能指数」と「賢さ」は全くの別物だということ。

イ カラスの「賢さ」はスキナー箱の実験だけでははかれないということ。

ウ ドバトは「記憶」するのは苦手だが、別の「賢さ」を持っているということ。

エ カラスは「記憶」するのは得意だが、「賢い」動物ではないということ。

問 8

——線⑤「正解のボタンを押し続けていればそのうち餌が出るよ、という装置を使ってハトに課題を解かせると、ハトは餌が出るまで何千回でもボタンをつつく」とありますが、ハトがこのような行動をとるのはなぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ハトは記憶力がないので、つづいても餌が出ないことを覚えていられないから。

イ ハトは日ごろからだただひたすら地面をつつくことで、餌を手に入れているから。

ウ ハトは人間のように賢くないので、ボタンをつつく以外の方法を考えないから。

エ ハトは変に工夫くふうして餌を手に入れるのは、効率が悪いことだと知っているから。

問 7

——線④「問題」とありますが、具体的にはどのような問題ですか。十五字以内で書きなさい。句読点なども字数に数えます。

問 9

——線⑥「さあ、生物として『賢い』のはどちらだろう？」とありますが、これに対する答えとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア カラスのほうがハトよりも賢い。

イ ハトのほうがカラスよりも賢い。

ウ カラスもハトもどちらも賢い。

エ カラスとハトとどちらが賢いかはわからない。

問10

——線⑦「人間にとって『賢く見える』事が『賢い』の定義である」とありますが、人間にとってどのようなことが「賢い」と感じるのですか。文中のことはを使って、六十字以内で書きなさい。句読点なども字数に数えます。

問11

本文の内容に合うものを次の中から二つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア カラスやハトやサルは生きものの種類が違うため、同じ基準で知能を調べることはできない。
- イ カラスはその行動が人間から見ると「賢そう」に見えるだけで、「賢い動物だ」とは言いきれない。
- ウ ドバトは単調な動きで餌を得るが、ハシボソガラスは無駄な動きをせずに餌を得る。
- エ 筆者は、人間が何事も自分たちの基準で判断してしまっていることを批判している。
- オ 方法を考えて要領よく行動できる力を人間は必要とし、その力があるものを「賢い」と感じる。

問題は次のページにつづきます。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

自分が開いたレストランを火事で失った佐々目は、給食調理員として働いているが、「シェフ」のプライドを捨てられずにいる。

美玲は子役としてテレビで活躍した小学五年生。太ってしまつたことで仕事が減り、自分に自信をなくしている。「※」スフレにスプーンを刺すときに、お願いごとをするんだ」という美玲のことを思い出し、佐々目は美玲を元気づけるため、一緒にスフレ作りをしようと提案した。

夏休みのある日、美玲を心配する学校栄養管理職員の毛利、養護教諭の由比先生、美玲と同じ小学校に通う陽の3人が、美玲とともに佐々目の家にやって来た。

「すごい、料理の道具がいっぱい！」

由比先生が、初めて見る佐々目の部屋に声を上げた。陽も※メタルラックで覆われた壁と大きな冷蔵庫を見て「なんか基地みたい」と目を見張っている。毛利もA 部屋を見回している。美玲だけはB 立ち尽くしている。

午後一時、毛利と由比先生が、美玲と陽を連れて佐々目の部屋を訪れたところだ。学校がお盆休みで閉鎖されるため、スフレ作りは佐々目の部屋で行うことになった。深津先生は「家族で帰省するから」と不参加だが、代わりにと材料費を援助してくれた。

毛利も美玲も陽も、いつも学校で見ているような格好だが、由比先生はタンクトップに薄い素材のロングスカートと、涼しげで見た目ありがたい格好で訪れた。そして佐々目と陽を見て「なんか兄弟みたい」と笑っている。二人とも大きめのTシャツ

ツにハーフパンツという格好だからだ。

大人三人に子ども二人で、狭い部屋はいっぱいだ。毛利は少しでもスペースを空ける配慮か「僕、ここで」と※ロフト部分に上がってくれた。柵に入れられた子犬のようだ。由比先生は窓際の床に座る。※ローテーブルの上に必要な材料を並べ、折りたたみ式のワゴンを上げたものを作業台にした。

① 今日は、美玲ちゃんがシェフだから」

母親に持たされたエプロンを、由比先生につけてもらっている美玲に告げると、陽に「ささめは？」と聞かれた。

「俺は、今日はスー・シェフ。シェフを助ける役目の人のこと」料理の腕も、やる気もない美玲に繊細なスフレを作らせることができるのはこの俺だけだ。そう思うことで、自分でちやちやつと作ってしまった気持ちを中心に追い払った。

「じゃ、始めようか」

白く丸い※ココット型を六つ出した。

まずはボウルに入れて室温に戻したバターを美玲に渡した。ヘラでクリームチーズと合わせて柔らかく練り、チーズ生地を作っていくのだ。その間に陽に手伝いを頼み、卵を卵白と卵黄に分けてもらう。

美玲はC 作業を進めていく。しかし、どこか上の空なのが作業から見取れる。卵黄や砂糖などを加えていくチーズ生地も混ぜ方に※ムラがある。卵白を泡立てる電動ミキサーも、ボウルの中央でじつと突き立てているだけだ。

代わりにスフレを作ってしまった気持ちにかられた。でも、ここは美玲に作らせなければ意味がない。

——作れた、という達成感が必要なんだと思う。

毛利と由比先生にも言ったことだ。

卵白を泡立てて作ったメレンゲを、泡を潰さないようにチーズ生地と混ぜたら、スフレ生地の完成だ。美玲はオーブンのドアを開めると振り返りもせず、部屋に戻り、陽にねだられるまま佐々目のノートパソコンでゲームの相手を始めた。

由比先生が子どもたちから一番離れたロフトの上がり段に佐々目を引っぱっていき、「大丈夫ですか？」と小声で聞いた。毛利もロフトから「D」「成功するでしょうか」と尋ねた。クーラーの冷気が回らず暑いロフトにいるせいで、額に汗をにじませている。

「大丈夫。たぶん」

② 待っていた瞬間は、じきに訪れた。

③ 美玲が不意にパソコンゲームをしていた手を止め、え、と声を上げた。宙を見回している。その目がキッチンのオーブンへと向く。

「いい匂い！」

陽はゲームを放り出してオーブンへと走る。

「スフレが焼ける匂いだ、これ」

由比先生がはしゃいだ声を上げた。部屋中に、甘い香りが漂っている。毛利もロフトでその香りを吸い込んでいる。これがお菓子作りの喜びだ。最初に幸せを感じる瞬間だ。

美玲はキッチンに行き、陽の後ろからオーブンをのぞき込んでいる。窮屈なスペースで無理な姿勢でかがんでいるにもかかわらず、E 中を見つめている。

オーブンのタイマーが焼き上がり知らせた。危ないからと美玲と陽を遠ざけ、焼けた※天板を取り出した。

「……失敗」

生地は膨らむことなく、ココット型に張り付いてひび割れている。

美玲がショックを受けたように息を呑んだ。陽にハーフパンツの腰をつかまれて揺すられた。

④ 「何で？ あんなにいい匂いがしたのに」

美玲も問いかけるようにこちらに向く。

「生地が焼ければいい匂いがするけど、それだけだから。スフレを膨らませるには、丁寧に丁寧にまぜて生地にたくさん空気の泡を入れないといけないんだよ」

陽から美玲へと視線を移し、そして言った。

「たぶん、いろんな気持ちなんかも」

まっすぐに見上げる美玲の目と、目が合った。

⑤ 二度目のトライでの美玲は、チーズ生地を佐々目が止めるまで丁寧に混ぜた。暴れ馬のように震える電動ミキサーを、滑るボウルの中で懸命に動かし、メレンゲも丁寧に泡立てた。メレンゲをチーズ生地と混ぜるときは、必死のあまり唇が祈りを呟くように、開いたり閉じたりを繰り返した。

陽は懸命に手伝い、美玲の手元をじっと見ている。由比先生もいつのまにか正座になっている。見上げると毛利も、暑いロフトで汗を拭きながら、じっと美玲の作業を見ている。

美玲がきれいに生地を絞り出したココット型を、今度こそと祈るような思いでオーブンに入れた。美玲は今度はオーブンから放たれる熱ものともせず、前に座り込んでじっと焼き上がりを待っている。

⑥ 「ささめさん！」

美玲に呼ばれてオーブンを覗いた。六つのココット型のスフレが膨らんでいく。陽が「やったあ」と声を上げる。由比先生も毛利も駆けつけてくる。

慎重に焼き色をつけてオーブンから取り出した。料理本に載せてもいいような、見事なスフレだ。

「ほら、スプーン刺して」

六つのスフレをトレイに載せてローテーブルに運び、美玲にスプーンを差し出した。陽が「全部いっちゃえー」とはしゃいだ声を上げる。由比先生は毛利と、拍手で盛り上げる。スプーンを受け取った美玲はスフレを見つめた。そして言った。

「私は一つでいい。みんな、食べて」

美玲は陽にスプーンを差し出して「みんなに食べてほしい」と繰り返し返した。

「おいしい！」

ローテーブルに出していた麦茶を片付け、アイスティーを運んでくると、陽はもう熱々のスフレをスプーンですくい、「あち、あち」と冷ましつつ口に入れていく。

「おいしい！ 焼きたてが食べられるなんて幸せ！」

由比先生も汗をにじませながら味わう。毛利も汗を拭きながら美玲に微笑んだ。

「おいしいよ。美玲ちゃん、食べないの？」

スプーンも手に取らず、スフレをじっと見つめていた美玲は、照れたように笑った。

「なんか、もったいなくて」

美玲はようやくスプーンを手に取り、スフレをすくった。そして、口に入れた。

「おいしい。今まで食べたスフレの中で、いちばんおいしい」

「自分で作ったからだよ」

⑦ やり遂げたらうれしさ。

深津先生が「子ども料理教室」のときに言ったことを思い出した。美玲のこの喜びが見られたなら、スー・シェフになった甲斐もある。

六つ目のスフレをどうするかと美玲に聞くと「陽くんにあべ

てほしい」と言う。

⑧ 私は、お腹いっぱい。不思議だね、こんなにふわふわなのに、空気なのに、お腹いっぱいだよ

スフレを食べ終え、スプーンを置いた美玲が微笑んだ。

「……私にもできるんだ。スフレを作ったりとか、できるんだ」  
猛暑の東京の小狭い部屋で、熱々のスフレを食べるおかしな五人をいたわるように、窓の外の陽が傾いて和らいでいく。

(遠藤彩見 『給食のおにいさん』 一部改変)

※(文中のことばの意味)

スフレ : 洋菓子的一种。

メタルラック : 金属製の棚。

ロフト : ここでは一段高くなった部屋のこと。

ローテーブル : 高さの低いテーブル。

コックト型 : 陶器製の小さな器。

ムラがある : 一定でないこと。

天板 : オープンの中に入れる鉄の板。

問1  A  E にあてはまることばを次の中から一つずつ

つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 物珍しげに      イ 身動きもせず  
ウ どうでも良さげに      エ 身を乗り出して  
オ 言われたとおりに



問2 ———線①「今日は、美玲ちゃんがシェフだから」について次の問いに答えなさい。

(1) この言葉を言った佐々目の気持ちとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 何もしようとしない美玲を優しくいたわり、役割を与えることで元気づけてあげようとする気持ち。
- イ 他の先生に止められて、自分の料理の腕を披露したいという思いをぐっと我慢する気持ち。
- ウ すっかりやる気を失っている美玲を変えられるのは自分しかないのだと、自信に満ちた気持ち。
- エ 自分が作った方が早い、目的は美玲に自信を持たせることだと自分に言い聞かせる気持ち。

(2) この言葉を言われた美玲の様子として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア うまくシェフをつとめられるか不安に思っている。
- イ シェフという大きな役割を与えられはりきっている。
- ウ シェフを任されてもたいして興味がわかないでいる。
- エ 何か自分を変えるきっかけになるかと期待している。

問3 ———線②「待っていた瞬間」とはどのような瞬間ですか。

文中のことばを使って三十字以内で答えなさい。句読点なども字数に数えます。

問4 ———線③「美玲が不意にパソコンゲームをしていた手を止め、え、と声を上げた」とありますが、このときの美玲の気持ちとしてふさわしいものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- |   |    |   |    |   |    |
|---|----|---|----|---|----|
| ア | 驚き | イ | 不安 | ウ | 感激 |
| エ | 緊張 | オ | 期待 | カ | 動揺 |

問5 ———線④「美玲も問いかけるようにこちらに向く」とありますが、その理由として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 一生懸命に作ったのにスフレはうまく焼き上がらず、佐々目の教え方に不満を感じたから。
- イ 佐々目の言うとおりに作ったのにスフレはうまく膨らまず、不思議に思ったから。
- ウ スフレが焼ける甘い香りに焼き上がりを楽しみにした分、失敗したのが残念だったから。
- エ 教えられたとおり動くだけのスフレ作りすら満足にできない自分が、つらかったから。

問6 ———線⑤「二度目のトライ」とありますが、この時の様子を説明したものととしてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 一度目は何となく作業をこなしていた美玲だったが、今度こそスフレをうまく焼き上げたいという思いでいっぱいになっている。

イ 佐々目の部屋にいる誰もが美玲のスフレ作りに気持ちを集中させ、スフレがうまく膨らむようにと、祈るような気持ちでいる。

ウ 再度スフレ作りに挑戦ちようせんすることになった美玲と、一緒にいる陽の「スフレ作り」に対する気持ちは、ほぼ同じように変化している。

エ 美玲が自分の手で作ることを最優先し、佐々目はスー・シェフとして手出し、口出しを一切することなくあたたかく支えている。

問7 ———線⑥「ささめさん！」と呼んだ美玲の気持ちとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 焼き上がりが近づき、今度こそスフレがうまく焼けるのか不安にかられている。

イ スフレが甘い香りを放ちはじめ、焼ける様子を佐々目と一緒に見たいと思っている。

ウ 意外にもスフレが膨らんだことに驚いて、佐々目に確かめてもらおうと思っている。

エ スフレが膨らんだことに興奮し、佐々目に早く見てもらいたいと思っている。

問8 ———線⑦「やり遂げたうれしさ」を表すことばを文中から三字でぬき出しなさい。

問9 ———線⑧「私は、お腹いっぱい。不思議だね、こんなにふわふわなのに、空気なのに、お腹いっぱいだよ」とありますが、なぜこのように言うのですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分が食べるよりも陽に食べてもらって喜んでもらいたい、遠慮したから。

イ もう失敗はできないという空気からようやく解放されて、ほっとしたから。

ウ 自分にもできることがあることに気がついて、心が満たされたから。

エ 自分のためにみんなが集まってくれたことが、幸せだと感じたから。

問10 この文章から読み取れる「佐々目」の様子として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア たとえ一度は失敗したとしても、きっと最後にはうまくいくと信じて美玲を見守っている。

イ 料理人のプライドを保つために、美玲のスフレ作りは絶対に成功させようとはりきっている。

ウ 美玲がお菓子作りに興味を示し、自信を取り戻してくれるよう部屋にも工夫をこらしている。

エ 美玲が自分の力でスフレを作り上げることに意味があると思ひ、一人で必死になっている。

問題は次のページにつづきます。

【三】三字の熟語になるように、次の□に「化」「視」「性」「的」「風」のどれかをあてはめなさい。同じ漢字は二度使えませ  
ん。

- ① 私の家は西洋□の建物です。
- ② 植物□の油を使用する。
- ③ テストの結果を絶対□しないでください。
- ④ 野生□したインコがいる。
- ⑤ 彼は典型□な科学者です。

【四】次の――線のカタカナは漢字に直し、漢字は読みを答え  
なさい。

- ① 仏様に花をおソナえする。
- ② あわてていたので、ワスれものをした。
- ③ 進入キンシの道路標識。
- ④ 天皇とコウゴウ。
- ⑤ 彼の顔がノウリに浮かぶ。
- ⑥ 努力を高く評価する。
- ⑦ 海には豊富な資源がある。
- ⑧ 電気が使えないと不便だ。
- ⑨ 小包を郵送した。
- ⑩ 彼の言葉が骨身にしみる。

これで問題は終わります。